

承認	議長	副議長	事務局長	次長	合議	担当
					 	

様式第 1 号

令和 6 年 7 月 18 日

真庭市議会

議長 小田 康文 様

真庭市議会議員

吉原 啓介



調査研究、研修会、要請・陳情活動届

政務活動費を使用して、下記のとおり研究、調査等を行うことについて届けますので、承認願います。

記

1 区 分 調査研究 研修会 要請・陳情活動

2 訪 問 先 京都外国語大学

3 内 容 ①高校の海外交流にかかる大学との連携の可能性に関するヒアリング
②①の取り組みに向けた意見交換

4 行 程 別紙のとおり

5 事務局から訪問先への依頼 必要 ・ 不要



(注) 複数の議員で実施する場合、代表者の届けでよいが、参加議員名簿を添付すること。

行程表

令和6年7月30日	移動	8:00	津山駅（※真庭→津山は自家用車）	中国ハイウェイバス	
		11:01	大阪駅		
		11:20	大阪梅田		
		12:01	西院		
	京都外国語大学	13:00～ 16:00	海外交流にかかる高大連携についてのヒアリング・意見交換		阪急
		16:19	西院		
		17:02	大阪梅田		
		18:00	大阪駅		
		20:56	津山駅（※津山→真庭は自家用車）		
		移動			
※面談相手 京都外国語大学 教授（イタリア語学科） 近藤直樹氏					

報 告 書

令和 6 年 7 月 31 日

真庭市議会議長 小田 康文 殿

報告者 真庭市議会議員 氏名 吉原 啓介



下記のとおり政務活動費を使用して 調査研究・研修会・要請陳情活動をいたしましたので、その結果を報告いたします。

記

1. 面談：京都外国語大学

(1) 日時

令和 6 年 7 月 30 日（火） 13 時～16 時

(2) 場所および相手方担当者

場 所：先方本部キャンパス

（京都市右京区西院笠目町 6）

相手側：外国語学部 イタリア語学科長 教授

近藤直樹氏

総合企画部 次長兼企画課課長

千葉文胤氏

総合企画部 企画課 企画・連携担当

関壘依子氏



(3) 内容〔こちらからの説明〕

○市内高校の教育プログラム魅力化に向けた取り組みの一つであるイタリアの高校との交流について今までの経緯と現在の状況を説明するとともに、これらの活動や将来の進学に向けた大学による支援・高大連携の可能性についてヒアリングした。

【これまでの経緯について説明】

○2021 年 6 月に、真庭高校と、ノチェラ・ウンブラのシジスモンディ校のオンライン交流実施。

○2022 年 9 月 真庭高校・勝山高校にイタリアからの短期留学生受け入れ。

○2024 年 4 月 今年 9 月からエラスムスプログラムによるアジア圏への高校生交流活動（短期留学）支援が正式決定したことに伴い、EGINA 代表者とイタリア中部の高校校長等の視察団が来日。

→岡山/真庭高校・勝山高校、広島/廿日市西高校、東京/駒沢大学高校・関東国際高校、埼玉/市立浦和高校を訪問。また、文部科学省も訪問し、あべ俊子副大臣と高校生の国際交流支援に関する意見交換も行った。

【今秋の活動について】

○今年 9 月にウンブリア州から高校生 2 名が来日・約 1 か月間真庭を中心に短期留学予定。

【今後に向けて】

○交流活動推進にあたり、日・伊双方の公的機関にもサポート関与を求めている。

○また、将来に向けた継続性・発展性の観点からすると、高校同士の交流では不十分で、双方の国際教育の専門大学の関与が必要と考える。

→実際の交流活動は高校生が中心となるが、この交流活動を通じて得られた関係を高校の時期だけにとどまらず大学への進学選択・さらに文化・経済交流面で本格的に活動できる人材育成につなげていくことができればと考えている。

(3) 内容〔先方からの意見〕

【近藤教授より】

○日本の未来を担う高校生に、イタリアへの関心を広めることは、本来であれば我々イタリア学に携わる人間が率先してやらなければならない課題であり、魅力的なご提案をいただいたことに感謝する。

○交流活動において重要なやり割を担っておられるペルージャ外国人大学の東城先生とは、学生の交換留学をめぐって長く親しい付き合いをしており、以前から、日本語を学ぶイタリアの高校生に付き添って来日した話も聞いていた。

○付属校である京都外大西高校もぜひこの活動に参加させてほしい。

○今秋の活動からの関与は大学の夏休み期間の関係もあり難しいが、今回の留学生の帰国前のタイミングであれば後期授業も始まっているので、少しでも時間が取れるようであれば、イタリア語学科のゼミに参加して日本におけるイタリア語教育の現場を体験してもらってもいいのではないかな。

【企画課より】

○交流活動に限っていえば、総合企画部としては側方支援ということしかできないが、もっと大きな枠での高大連携、という双方にメリットのあるものに関しては今後検討していきたい。

○大学側にとっても学生の確保はたいへん重要な課題。志願者を増やしていくためにも、高校生に対して語学や国際活動に興味を持ってもらう活動は積極的に行っていかなければならない。

○現在、本学には勝山高校出身者が 3 名在籍しているが、いずれも一般入試での入学者。

○指定校推薦枠設定等に関してはすぐにできることではないが、まずはオープンキャンパスへの参加や、入学希望者に対する相談等、必要に応じて

高校や受験生へのフォローはできる。

2. 面談を終えて

市内高校の魅力化に向けた取り組みとして、生徒の進路選択範囲を広げていくことはたいへん重要と考える。

国債交流活動をきっかけに、国内の他のエリアの高校や大学との連携関係を広げ、国内外に広い視野を持つことのできる環境づくりにつなげられれば、と考えている。

市内高校、教育委員会、議員間でも情報共有・連携して効果的な活動に結び付けていきたい。

以 上